

けんぱくものしりシート

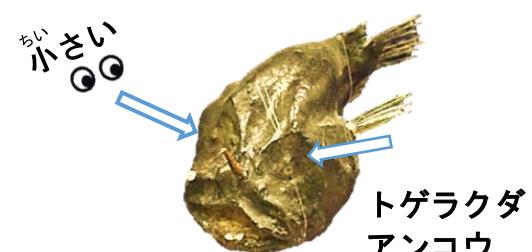
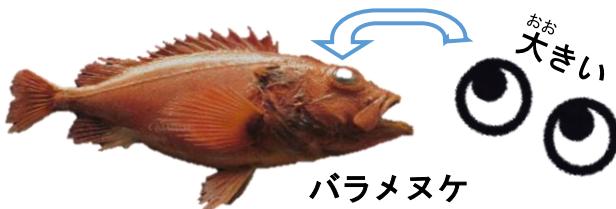
しんかいぎょ 深海魚



深海魚は、水深200mより深い海（深海）に住んでいます。そこから先は太陽の光が届きにくくなるため暗やみが広がり、また、高い水圧がかかるきびしい環境です。そんな場所に適応するため、深海魚は多種多様な姿をしています。その特徴をみていきましょう。

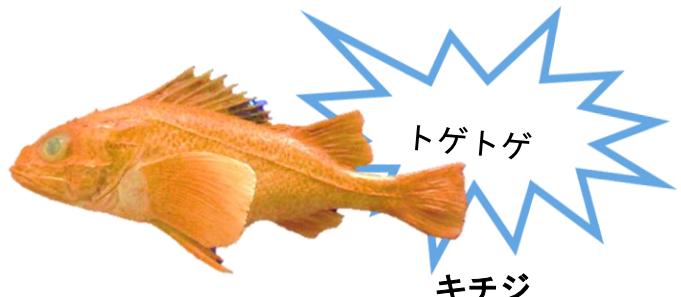
＜大きい眼と小さい眼＞

わずかな光でもよく見えるように眼を大きく発達させた魚や、逆に見ることをあきらめて眼を小さく退化させた魚がいます。



＜ブヨブヨとトゲトゲ＞

深海では空気をふくむものは水圧でつぶれてしまいますが、中身が水で満たされている豆腐やコンニャクなどは形が変わりません。深海魚の体の中も同じように水や油で満たされていて、コンニャクのようなブヨブヨの体をしたものがいます。また、泳ぎが苦手なものの中には、敵から身を守れるようにかたいトゲを備えてトゲトゲした体の魚もいます。

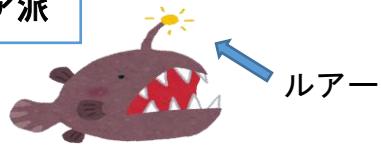


*写真の魚は全て久慈沖深海で採集したものです。

＜発光器から光を出す＞

多くの深海魚が光を出します。光るしくみは、大きく分けると「バクテリア（細菌の仲間）に光ってもらう」、「自分で光る」の2通りがあります。

バクテリア派



ビワアンコウのルアーには、バクテリア飼育室があり、バクテリアを住まわせてその光を利用しています。

自分で光る派



ハダカイワシ類は自分の体内で光る物質をつくり、化学反応させて光ります。(ホタルと同じ)

光を出す目的は種類によって様々です。

①エサとなる生物をさそいだして食べるため

②暗やみで物を見るため

③同じ種類の仲間や、オスとメスで合図を送るため

④おそわれそうになったとき敵を驚かせるため

⑤自分の影や輪かくを消して敵に見つからないようにするため

発光しないと…

影だ！えものが上にいる！

⑤について

海中に差しこむ光によって影がで出てしまい、敵にみ見つかる。

発光すると…

同じくらいの光を出すと自分の影がで出ないので、敵に気づかれない。

参考『深海魚ってどんな魚』尼岡邦夫 2013年 / 『NHK高校講座ホームページ ベーシックサイエンス第30回 鉄をもつぶす怪力～水圧～』2021年 (<https://www.nhk.or.jp/kokokozu/tv/basicscience/archive/chapter030.html>) 他

「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。最新情報ではございませんので、あらかじめご了承ください。
「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。



岩手県立博物館

Tel. 020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Fax. 019-661-2831 <http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>